

環境中の健康リスクへの対応

震災廃棄物の焼却処理による環境影響

2013年1月から9月にかけて、東日本大震災により発生した岩手県宮古市の震災廃棄物が大阪市のごみ焼却施設一工場にて焼却処理され、焼却灰は管理型最終処分場で埋立処分されました。

〔1〕震災廃棄物の試験焼却実施までに、排ガス採取方法の確認実験を公開で行うという議会からの要請があり、それに基づき研究所において議員、報道関係者等が立ち会う中での公開実験を行いました。

〔2〕大阪市域の放射性セシウムのバックグラウンド調査を行うとともに、2011年以降に市域から回収されたごみ中の放射性セシウムの経年変化と由来を明らかにしました。さらに、ごみ焼却施設における焼却灰、下水汚泥焼却灰、浄水発生土の放射能に関して、これら廃棄物回収系による集積・除去機能について検討しました。



ゲルマニウム半導体検出器付γ線アナライザー
放射性核種の測定に用いています。

「水の都」の水質モニタリングー有害化学物質ー



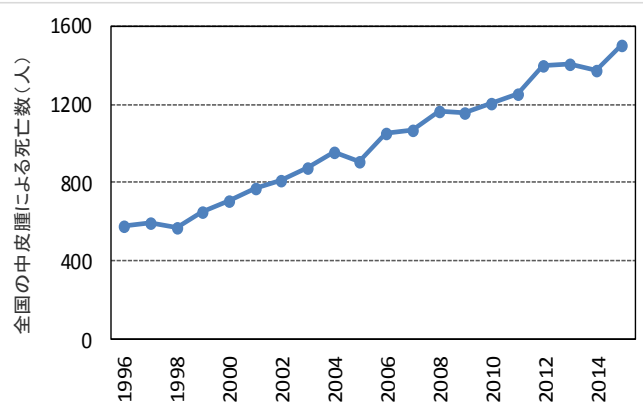
私たちは日常生活の中で数多くの化学物質を使用していますが、それらの多くは河川等の水中からも検出され、中には有害性を持つものもあることから問題となっています。研究所では大阪市を流れる河川や海域中の有害化学物質について、水質汚濁防止法に基づき現在46項目の検査を行っています。

近年では、界面活性剤（洗剤の主成分）の一つであり私たちの生活からも排出されるLAS（直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩）が環境基準に設定され、年間延べ73地点の測定を実施しました。こうして研究所は「水の都」大阪の水質を日々監視しています。

アスベスト飛散防止対策ー空気濃度測定ー

現在、国内ではアスベストの製造・使用は禁止されていますが、過去にアスベストが使用された建物は現在も残っています。法令によりアスベストを含んだ吹付け材などの除去や解体工事等の際には、周囲に飛散しないよう隔離養生などを行い厳重に管理することが定められています。

大阪市では市内を5ブロックに分け、各ブロックの環境局職員が顕微鏡を用いて現場で速やかにアスベストの飛散がないかチェックしています。問題があった場合、現場の空気採取し研究所で位相差顕微鏡や電子顕微鏡を用いた精密な検査を行っており、2008年以降の検体数は計142検体になります。市民の健康を守る使命のもと、研究所と環境局は連携プレーでアスベストの飛散から大阪の空気を守っています。



全国の中皮腫による死亡数の年次推移「人口動態統計（確定数）」より
中皮腫はアスベストによる健康被害の一つで、10～40年程の長い潜伏期間をかけ進行します。国内では中皮腫による死亡者数が増加傾向にあります。

調査研究課 都市環境グループ

〒543-0026 大阪市天王寺区東上町8番34号
大阪市立環境科学研究所「健康・環境・サイエンス」係

電話 06-6771-3043
ファックス 06-6772-0676

「健康・環境・サイエンス」のバックナンバーは
ホームページにあります。

大阪市立環境科学研究所

検索